

2026年7月米CPI (消費者物価指数)

<結果概要>

・米7月CPI(総合)は、前年同月比+3.4%(6月: +3.5%)、変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは、同+2.5%(6月: +2.6%)と伸びはやや鈍化した。前月比では、総合は+0.1%(6月: ▲0.4%)コアは同+0.2%(6月: ±0%)とともに上昇し、総合・コアともに市場予想と一致する結果となった。

・CPI(総合、前月比)の寄与度別内訳では、米国とイランの戦争に伴うエネルギー価格急騰の影響が緩和したことを示唆しており、エネルギー価格は▲0.11%と前月比では下落した。コアサービスは+0.137%と住居費に大きな変化はみられなかったが、保険医療サービス、輸送サービスの上昇により伸びが加速した。また、コア財は半導体の需給逼迫に伴いPC、周辺機器の値上げを実施したことで+0.037%と上昇に転じた。

(単位: %)

	6月分	7月分	市場予想(7月分)
CPI(前月比)	▲ 0.4	0.1	0.1
CPI(前年同月比)	3.5	3.4	3.4
コアCPI(前月比)	0.0	0.2	0.2
コアCPI(前年同月比)	2.6	2.5	2.5

<寄与度別内訳(前月比)>

(単位: %)

主な項目	6月分	7月分
全項目	▲ 0.400	0.074
コアサービス	0.019	0.137
(うち住居費)	0.041	0.049
コア財	▲ 0.016	0.037
食品	0.028	0.011
エネルギー	▲ 0.445	▲ 0.110

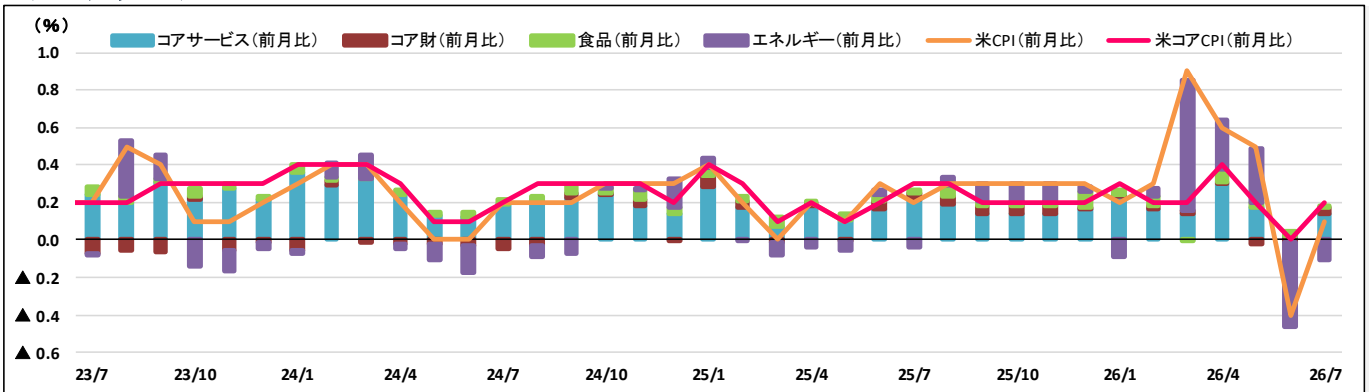
CPI(消費者物価指数)とは

・米国の消費者物価指数は、家計が購入する財・サービス価格の平均的な変化を測定する月次の物価指標であり、調査は衣類や食品等をはじめとして200以上のカテゴリーで実施される。

・全体の物価の変化率を示す「総合」と変動の大きいエネルギー関連指数や食料品目を除いた基調的なインフレの動向を示す「コア」に分けられる。

・FRB(米連邦準備制度理事会)は、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標に掲げていることから、金融政策の動向を見極めるうえで米CPIは非常に注目度が高い。

<CPIチャート>



出所: 米労働統計局、Bloombergより足利銀行資金証券部作成

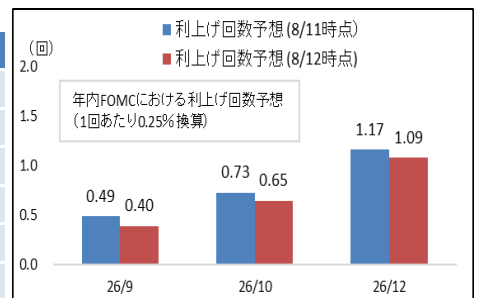
<今回のポイント>

・今回のCPIは前月比では小幅に上昇したものの、米国とイラン戦争を背景としたエネルギー価格急騰の影響が緩和していることが示されたほか、インフレ再燃を示唆する動きもみられておらず、落ち着いた伸びに留まっていることが確認された。

・CPIの結果を受けて利上げ観測は後退した。FF金利先物市場における年内の利上げ回数予想はCPI公表前の1.17回(1回あたり0.25%換算)から公表後は1.09回へと低下した。

<市場動向>

	8月11日	8月12日	前日比
ドル/円相場(円)	159.28	159.42	0.14
ダウ平均株価(ドル)	53,791.85	53,770.27	▲ 21.58
S&P500(ポイント)	7,728.20	7,748.50	20.30
NASDAQ(ポイント)	26,445.45	26,588.49	143.04
米2年国債利回り(%)	4.21	4.20	▲ 0.01
米10年国債利回り(%)	4.69	4.69	0.00



※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。